

第2回小学校教科担任制推進教員協議会兼小学校教科担任制推進校連絡協議会 記録

【目的】 教科担任制推進教員、推進校管理職及び教科担任制推進地域担当指導主事を対象に、教科担任制の推進に係る行政説明及び協議を行うことにより、教科担任制の充実と本県児童の学力向上に資する。

【日時】 令和3年2月5日（金） 13:30～16:00

【会場】 大分県教育センター 3F 講堂

【内容】

1 開会行事

＜挨拶＞ 大分県教育庁義務教育課 内海真理子 課長

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、目の前の子ども
の学びを保障いただいていることに深く感謝する。
- ・ 小学校教科担任制推進教員を、令和元年度に小学校教科担任制
推進地域として3地域9校、令和2年度に27校に配置し全県に
展開している。
- ・ 1月26日付け中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子ども
の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」に、令和4年度を目途に小
学校高学年に教科担任制の導入（算数・理科・外国語を対象）とあり、国も導入を進めていく
予定。
- ・ 本協議会で今年度の成果・課題を共有し、課題解決に向けたヒントを持って帰って欲しい。
- ・ 「令和の日本型学校教育」が進んでいくことを期待する。



2 行政説明

「小学校教科担任制の推進状況について」

大分県教育庁義務教育課 長谷部 英樹 指導主事

- ・ 大分県学力定着状況調査（質問紙調査）結果の推移を見ると、
小学校5年生は「教科の勉強が好き」、「勉強で分からないと
き、そのままにする」は下降傾向、「教科の勉強は分かっている」も停滞している。今後、下降に転じるおそれがある。
- ・ 要因の1つとして、近年、小学校教員の大量退職・採用が挙げ
られる。
- ・ 教科担任制を導入することで、経験の浅い教員の学級にベテラ
ンの教科担任が出入りすることになる。そうすれば、若い教員にアドバイスする機会も増え、
学級の問題を一人で抱え込むリスクも減らせると考える。
- ・ 県は、高学年の国算社理外を中心に、学級担任間の交換授業を推進している。
- ・ 導入メリット。①学習指導の充実（指導法・評価方法の改善・教材研究等）、②生徒指導の
充実（児童理解・教職員間の連携強化等）、③中学校への円滑な接続（児童の不安解消等）。
- ・ 推進校での調査で、「教科の勉強が好き・分かる」「授業の中で課題に対して進んで取り組
む」「勉強で分からないとき、先生や友だちに尋ねる」は肯定値が大幅に増加している。



3 取組発表

◇「推進校における教科担任制の成果と課題について」

(1) <発表者>宇佐市立四日市北小学校 通山 由美子 指導教諭

【成果】[児童]①学習に対する意欲の高まり（質問の増加・粘り強く取り組む等）。②家庭学習時間の増加。③D層（単元テスト60%未満）の減少。

[教職員]①モチベーションの向上。②教材研究の充実、実態に即した授業改善。

③児童と向き合う時間の増加。④担任の負担軽減。

【課題】[教職員]①日課表の組替。②教師の専門性が最大限発揮できる教科分担の在り方。③行事時の支援体制確保。④宿題・やり直し等の担任との連携。



(2) <発表者>国東市立安岐小学校 秋元 佳恵 教諭

[学習指導の充実について]

【成果】系統的な教材研究の充実。実態に即した授業改善。

【課題】教科担任間の情報共有。教科等横断的な視点による授業改善。

[生徒指導の充実について]

【成果】児童に関わる教職員の増加、多面的な理解。学年部内の共通理解。

【課題】学級担任によるタイムリーな生徒指導がしづらい。学級担任と児童との距離感と希薄感。年度当初の児童理解。

[中学校への円滑な接続について]

【成果】中学校の教科担任制の戸惑いや困りの解消。

【課題】中学校への円滑な接続ができていないか等の検証及び情報共有。



(3) <発表者>豊後大野市三重第一小学校 阿南 吉浩 指導教諭

【成果】[児童]学習に対する意欲の高まり（多くの教職員との関わり・質問の増加等）。

[保護者]多くの教職員との関わり。授業理解が進んでいる。

[教職員]教材研究の教科数が減少。同じ内容の授業を複数回実施。児童理解が進む。

【課題】[教職員]教材研究や家庭学習の取り寄せ方等、組織的な取組をさらに進め、働き方改革へつなげる。



◇取組発表「推進地域における教科担任制の成果と課題について」

<発表者>国東市教育委員会 末平 誠 係長

【事業推進に係る主な取組内容】

- ①国算社理を中心にした教科担任制。外国語は担任。
- ②日課表の調整担当を決める。担当者は原則20～22時間。
- ③県とは別に市教委による連絡協議会を年間4回実施。取組状況の成果・課題等の交流協議。
- ④年1回の公開授業及び教科担任制の取組の還流。市教務主任会等で市内学校へ還流。



【成果】学力結果の上昇。定期的な休暇・出張への対応が可能。教科担当が不在であっても他の教員でも対応が可能。

【課題】中学校と連携した効果の検証。人員確保と実施体制の構築。組織的な体制づくり。効果的な教科担任制の在り方を今後も追究する。

4 情報交換及び協議「小学校教科担任制導入の成果と課題について」

(協議内容)

1 教科担任制導入による成果

※学力面（単元テスト、学びに向かう力アンケート等）、生徒指導面、教職員の働き方改革の面等、成果として表れてきたこと

2 教科担任制導入による課題

※日課表の作成、日課表の時数調整、学習指導の充実や生徒指導の充実方法、地域やPTAへの啓発、近隣校への広げ方等について、現時点で課題と思われること

3 課題解決に向けた効果的な取組について

※2で取り上げた課題の解決に向けて、効果的であった取組

4 教科担任制導入による成果の検証について

※各種学力調査や独自アンケート等を利用した成果の検証等、具体的な取組

5 近隣校への普及について

※公開研究授業、取組発表等、近隣校や地域への教科担任制普及に向けた具体的な取組



5 開会行事